

徳島県南部の感潮域と内湾の潮間帯のカニ類 (I)

山本藍子*・佐藤友康**・町田吉彦*

Crabs collected from the brackish rivers and intertidal sandy-mud flats
on the southern coasts of Tokushima Prefecture (I)

YAMAMOTO Aiko*, SATO Tomoyasu** and MACHIDA Yoshihiko*

Abstract Crabs inhabiting brackish rivers and estuaries on the southern coast of Tokushima Prefecture were studied on the basis of 169 specimens collected in August and October 2005. The occurrences of 24 species belonging to 19 genera in 5 families were recognized. The following species seemed to be zoogeographically important: *Halicarcinus coralicola*, *Neorhynchoplax okinawaensis*, *Uca lactea*, *Acmaeopleura parvula*, *Ptychognathus capillidigitatus* and *P. ishii*, *Chasmagnathus convexus*, *Helice* sp., *Nanosesarma gordonii* and *Parasesarma acis*.

Key words: crabs, brackish waters, southern Tokushima Prefecture, zoogeography.

はじめに

環境省による徳島県内の公共用水域の名称によれば、徳島県の海域は鳴門市大磯崎から北の播磨灘、大磯崎から蒲生田岬までの紀伊水道、蒲生田岬より南の県南海岸に区別される (<http://www.env.go.jp/chemi/prtr/notification/submit/suiiki/tokushima.pdf>)。徳島県下の干潟海岸に生息する底生動物については、山西・和田 (1996) による報告があり、徳島市の吉野川と勝浦川、那賀郡那賀川町および阿南市の那賀川に生息するカニ類を含む情報が概説されている。徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会 (2001) によれば、カニ類では5種が同県の絶滅危惧 I 類に、9種

が絶滅危惧 II 類に、2種が準絶滅危惧種に指定されている。しかしながら、これらの指定は主に吉野川河口汽水域のカニ類の生息状況に基づいている。近年、澤田 (2004) は吉野川河口域のカニ類を調査し、1981年以降に同地域で記録された種を集約するとともに、2004年に採集された4科20種を報告している。このように、徳島県下の干潟環境のカニ類相についての研究は、紀伊水道沿岸の一級河川である吉野川と那賀川が中心で、県南海岸ではきわめて少ないと考えられる。

著者らは、高知県の絶滅危惧種を含む干潟環境に生息するカニ類の分布を明らかにする目的で研究を開始し、これまでにいくつかの成果を上げてきた (町田ほか, 2004; 山本ほか, 2005; 山本ほ

*高知大学理学部海洋生物学研究室

〒780-8520 高知市曙町2-5-1

Laboratory of Marine Biology, Faculty of Science, Kochi University, 2-5-1 Akebono-cho, Kochi 780-8520, Japan

**株式会社東洋技研

〒783-0085 南国市十市4465-19

Toyo Giken, 4465-19 Tochi, Nankoku 783-0085, Japan

か, 2006a, 2006b; 佐藤ほか, 2006). 著者らの高知県下における研究は継続中であるが, 高知県と徳島県南部の干潟海岸のカニ類相を比較する目的で, 徳島県での調査を2005年に実施した. その結果, 動物地理学的に興味ある事実が得られたので報告する.

調査場所と方法

調査は2005年8月20日と10月1日に実施した. 調査地点は, 穴喰町那佐湾の最奥部 ($33^{\circ}34'42-50''$, $134^{\circ}20'05-10''$ E), 海部町の海部川感潮域左岸 ($33^{\circ}35'47-50''$ N, $134^{\circ}21'45-53''$ E), 海南町伊勢田川の感潮域左岸とその地先の砂泥干潟 ($33^{\circ}37'40-45''$ N, $134^{\circ}27'07-12''$ E), 牟岐町内妻川の感潮域の兩岸 ($33^{\circ}29'21-31''$ N, $134^{\circ}24'09-18''$ E), 牟岐町の牟岐川干潮域左岸 ($33^{\circ}40'11-12''$ N, $134^{\circ}25'23-25''$ E) である (Fig. 1). ただし, 10月1日の調査は那佐湾のみで実施した.

カニ類は主に転石の下から素手で採集したが, 種により巣穴の周辺の底質ごとスコップで採集し

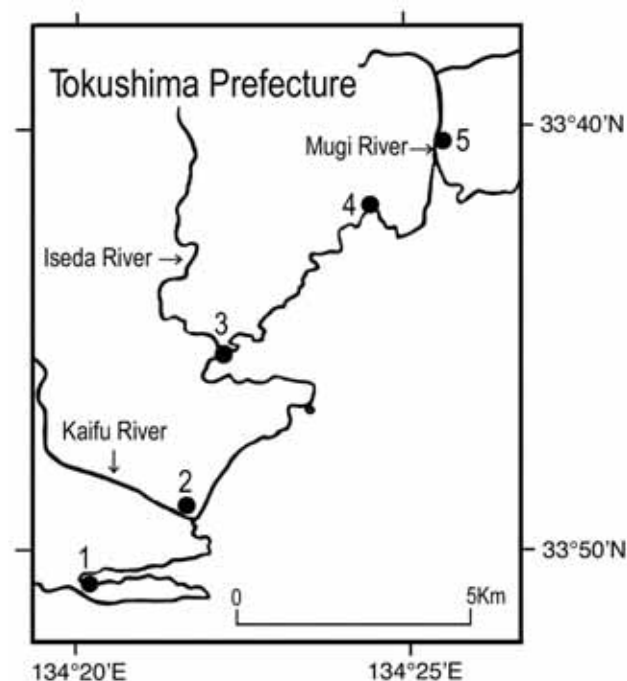


Fig. 1. A map showing sampling localities in this study: 1, Nasa Inlet (Shishikui Town); 2, Kaifu River (Kaifu Town); 3, Iseda River (Kainan Town); 4, Uchizuma River (Mugi Town); 5, Mugi River (Mugi Town).

た. また, 砂泥のみからなる底質では, 柄の長さが90cm, 直径38cm, 網の長さ30cm, 目合い3mmの手網を用いて表層の底質ごと集めた. この手網は河川の礫質の感潮域でも用いた. この場合は, 礫の中に網を軽く差し込み, 網口を上流に向けて網口付近の礫を足でかき混ぜて採集を行った. 採集したカニ類は低温で保存して研究室に持ち帰り, 写真撮影をした後, 75%アルコールで保存した. 標本はすべて四国自然史科学研究センターの甲殻類標本 (SINH-CR) として登録してあるが, 本文ではSINH-CRを省略し, 登録番号のみを太字で示す. また, 甲幅をCWで示す.

結果ならびに考察

ヤワラガニ科

Halicarcinus coralicola (Rathbun, 1909)

ツノダシヤワラガニ

(Fig. 2)



Fig. 2. *Halicarcinus coralicola*, SINH-CR 3325, from Iseda River, 20 Aug. 2005.

調査標本 (3個体) : **3325**, ♀ (抱卵), 1.8mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日; **3326**, ♀ (抱卵), 1.6mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日; **3327**, ♂, 1.3mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日.

記載 : 小型のカニで, 甲はやや縦に伸びる円形をなし, 甲の周りに縁取りがある. 額域は前方に突出し, 3歯をもつ. 額の3歯のうち中央歯が著しく伸長し, 先端に長い軟毛を有する. 両側の2歯はきわめて小さい. 前側縁には眼後歯を含め2歯を持

つ。後側縁には歯がない。歩脚は著しく長い。雄の鉗脚は長く、鉗部の不動歯に1歯を有する。

備考：伊勢田川の左岸の地先の砂泥干潟干潟には大礫および巨礫が点在しており、その下面にマガキの殻が付着している。本種は、この殻の間隙に詰まっている泥の中から発見された。

Davie *et al.* (2004) によれば、日本において本種が記録された地域は、陸奥湾、館山湾、東京湾、下田、相模湾、伊勢湾、山形県、福井県である。したがって、本報告が本種の四国での初記録となると同時に、本邦における南限の記録となる。

Neorhynchoplax okinawaensis
(Nakasone and Takeda, 1994)
オキナワヤワラガニ
(Fig. 3)



Fig. 3. *Neorhynchoplax okinawaensis*, SINH-CR 3524, from Nasa Bay, 20 Aug. 2005.

調査標本 (9個体)：3328, ♂, 0.4mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日；3329, ♂, 0.5mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日；3524, ♀, 2.6mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日；3525, ♂, 2.5mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日；3526, 3♂, 1.7-2.3mm CW, 2♀, 2.3-2.4mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考：本種の生息環境はツノダシヤワラガニと同様であった。標本は大礫および巨礫の下面に付着しているカキの死に殻の間から得られた。那佐湾では最奥部の南岸のみで標本が得られた。

高知県では、本種は浦戸湾の灘で初めて記録された(町田ほか, 2004；山本ほか, 2005)。その後、浦戸湾と浦ノ内湾内の各地、中土佐町上ノ加江川

の河口域、土佐清水市の下ノ加江川河口域で記録されている(山本ほか, 2005)。山本ほか(2005)は国内における本種の産地をまとめたが、これによると高知県以外での本種の産地は沖縄県と和歌山県の紀伊水道側のみであり、本報告が本種の徳島県の初記録となる。

ワタリガニ科

Charybdis japonica (A. Milne Edwards, 1861)
イシガニ

調査標本 (2個体)：3302, ♂, 23.0mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日；3303, ♂, 32.0mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日。

備考：本標本は砂泥干潟のごく浅い水たまりの底質上で得られた。

澤田(2004)によれば、本種は吉野川で1993年、1997年および1999年に記録されている。

オウギガニ科

Leptodius exaratus (H. Milne Edwards, 1834)
オウギガニ

調査標本 (16個体)：3291, ♂, 13.9mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日；3305, ♂, 11.0mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日；3510, ♂, 26.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日；3511, 11♂, 7.7-31.0mm CW, 2♀, 21.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考：那佐湾の湾奥部の南岸の転石下で標本が得られたが、北岸では転石下も含めて標本は得られなかった。ただし、8月20日には那佐湾最奥部の南岸で採集を実施していない。

本種は、吉野川での1981年から2004年の調査では記録されていない(澤田, 2004)。

ケブカガニ科

Pilumnopus makianus (Rathbun, 1931)
マキトラノオガニ
(Fig. 4)

調査標本 (19個体)：3308, ♂, 12.0mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日；3309, 9♂, 4.5-11.0mm CW, 7♀, 6.1-9.8mm CW, ♀(抱卵), 7.8mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日；3518, ♀, 8.5mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。



Fig. 4. *Pilumnopus makianus*, SINH-CR 3518, from Nasa Bay, 1 Oct. 2005.

備考：標本はいずれも転石の下面ないし付着動物の間隙から得られた。

本種は吉野川では1987年と1999年に報告されているが、2004年には記録されていない(澤田, 2004)。和田(1995)は、国内では本種が和歌山県、瀬戸内海および九州沿岸に産するとしたが、高知県中央部の内湾では普通種である(山本ほか, 2005)。

スナガニ科

Ocypode stimpsoni Ortmann, 1897

スナガニ

調査標本 (5個体)：3316, ♂, 10.0mm CW, 内妻川, 2005年8月20日；3317, 4♂, 5.9-8.5mm CW, 内妻川, 2005年8月20日。

備考：標本はいずれも河口の左岸に広がる砂浜で得られた。採集された個体は巣穴から離れ、砂浜の表面で活動していた。この生息地の北側は海水浴場となっているが、このような砂浜は本調査地域ではここだけにしかない。

Macrophthalmus japonicus (de Haan, 1835)

ヤマトオサガニ

調査標本 (1個体)：3516, ♂, 18.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考：那佐湾最奥部では、本種は南岸側の砂泥干潟のプールに多数生息している。標本は、巣穴の周辺の砂泥ごとスコップで掘ることにより得られた。

本種は、吉野川では頻繁に記録されている(澤田, 2004)。また、勝浦川にも生息する(山西・和田, 1996)。

Scopimera globosa (de Haan, 1835)

コメツキガニ

調査標本 (2個体)：3517, ♂, 12.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日；3530, ♂, 2.6mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考：那佐湾最奥部では、北岸から中央部までの間で本種の大集団が形成されている。

徳島県では、本種は吉野川(山西・和田, 1996；澤田, 2004)、勝浦川および那賀川(和田ほか, 1996)で記録されている。

Uca lactea (de Haan, 1835)

ハクセンシオマネキ

(Fig. 5)



Fig. 5. *Uca lactea*, SINH-CR 3294, from Nasa Bay, 20 Aug. 2005.

調査標本 (1個体)：3294, ♂, 16.0mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日。

備考：本種は那佐湾最奥部の北岸のやや東の砂泥干潟で確認されたが、那佐湾で本種が生息可能な面積はさほど広くない。

本種は徳島県の準絶滅危惧種で、吉野川(山西・和田, 1996；徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会, 2001)と、勝浦川(山西・和田, 1996)に生息するとされている。本調査で確認された生息地は1カ所のみであるが、那佐湾は従来の産地に

含まれておらず、徳島県南部における貴重な産地と判断される。

モクズガニ科

Acmaeopleura parvula Stimpson, 1858

ヒメアカイソガニ

調査標本 (15個体) : **3295**, ♂, 9.8mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日 ; **3296**, ♂, 5.6mm CW, 3♀, 5.9-7.9mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日 ; **3307**, ♀, 6.1mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日 ; **3520**, ♀, 8.3mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日 ; **3521**, 4♂, 4.5-7.5mm CW, 4♀, 4.7-6.1mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考 : 標本は伊勢田川河口左岸と、那佐湾最奥部南岸の岩礁地帯の潮間帯上部で採集された。これらの場所は岩が斜面をなしており、標本はここに積もっている巨礫ないし大礫の下面から採集された。このような環境は本調査地域ではきわめて少ない。

三宅 (1983, 1998) と Davie *et al.* (2004) によれば、本種は日本では本州から九州にかけての日本海側と太平洋側に広く分布するが、産地が徳島県と明記された記録はない。

Hemigrapsus penicillatus (de Haan, 1835)

ケフサイソガニ

調査標本 (6個体) : **3290**, ♂, 15.0mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日 ; **3292**, ♀, 7.9mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日 ; **3304**, ♀ (抱卵), 11.0mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日 ; **3315**, ♂, 19.0mm CW, 内妻川, 2005年8月20日 ; **3322**, ♀ (抱卵), 14.0mm CW, 牟岐川, 2005年8月20日 ; **3519**, ♂, 9.9mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考 : 本種は徳島県絶滅危惧Ⅱ類で、吉野川、鳴門市、海南町の浦上川が県内の産地とされている (徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会, 2001)。山西・和田 (1996) は本種が那賀川に産することを記している。本研究では那佐湾最奥部の南岸で、多数の個体の生息が確認された。標本は礫の下面ないし底質の表面から素手で採集された。

Hemigrapsus sanguineus (de Haan, 1835)

イソガニ

調査標本 (2個体) : **3508**, ♂, 39.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日 ; **3509**, ♀, 15.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考 : 那佐湾最奥部の南岸に、多数の個体が生息している。標本は底質の表面から素手で採集された。

本種は、吉野川では1987年、1999年および2004年に確認されている (澤田, 2004)。

Ptychognathus capillidigitatus Takeda, 1984

ヒメヒライソモドキ

調査標本 (7個体) : **3320**, ♂, 6.4mm CW, 牟岐川, 2005年8月20日 ; **3321**, 5♂, 5.6-8.0mm CW, ♀, 4.6mm CW, 牟岐川, 2005年8月20日。

備考 : 牟岐川左岸の湾処で採集された。底質は礫であり、礫を足でかき混ぜ、流下物を手網で集めることで標本が得られた。

山本ほか (2005) は、高知県における本種の記録と日本における従来の記録をまとめ、和歌山県の紀伊水道側、大阪府、高知県、鹿児島県 (奄美)、沖縄県を産地として示した。したがって、本報告は本種の徳島県初記録である。なお、山本ほか (2006a) は室戸阿南海岸の高知県側での本種の記録を報告している。山本ほか (2005, 2006a) によれば、本種は、高知県下ではタイワンヒライソモドキより分布域が狭いが、広範囲に分布する。

Ptychognathus ishii Sakai, 1939

タイワンヒライソモドキ

調査標本 (60個体) : **3293**, 4♂, 5.9-8.4mm CW, 3♀, 6.3-8.2mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日 ; **3300**, ♀ (抱卵), 9.7mm CW, 海部川, 2005年8月20日 ; **3301**, 2♂, 6.7-10.0mm CW, ♀, 6.2mm CW, 海部川, 2005年8月20日 ; **3318**, ♀, 9.4mm CW, 牟岐川, 2005年8月20日 ; **3319**, 21♂, 6.0-11.0mm CW, 21♀, 6.2-8.8mm CW, 6♀ (抱卵), 4.9-7.8mm CW, 牟岐川, 2005年8月20日。

備考 : 那佐湾最奥部での本種の採集地点は、北端にある調整池からの淡水の流れ込み部分に限定されている。ここでは、礫をかき混ぜ、流下物を

手網で集めることで標本が得られた。また、礫をめくことで容易に採集できた。海部川と牟岐川では、湾処の礫の下面から標本が採集されたものの、本流では採集できなかった。

山本ほか (2005) は日本における本種の産地をまとめたが、それには徳島県が含まれておらず、本報告が本種の徳島県初記録となる。本種は高知県下において、河口が閉塞しない多くの河川の感潮域に生息する (山本ほか, 2006a)。

ベンケイガニ科

Chasmagnathus convexus (de Haan, 1833)

ハマガニ

(Fig. 6)



Fig. 6. *Chasmagnathus convexus*, SINH-CR 3329, from Nasa Inlet, 20 Aug. 2005.

調査標本 (1個体) : 3329, ♂, 39.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考 : 本標本は那佐湾最奥部の北端にある調整池で得られた。

本種は徳島県の絶滅危惧Ⅱ類で、徳島市の吉野川および勝浦川が産地とされている (徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会, 2001)。山西・和田 (1996) は本種が那賀川にも産することを報告しているが、那佐湾は従来の産地に含まれていない。したがって、那佐湾は徳島県における本種の希少な産地である。

Chiromantes dehaani

(H. Milne Edwards, 1853)

クロベンケイガニ

調査標本 (1個体) : 3288, ♀, 23.8mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日。

備考 : 那佐湾最奥部の南岸の山の斜面と、北端の調整池に多数の個体が生息していた。また、内妻川でも多数の個体の生息が確認されたが、標本の採集は実施していない。

澤田 (2004) によれば、本種は吉野川で頻繁に記録されている。

Chiromantes haematocheir (de Haan, 1833)

アカテガニ

調査標本 (4個体) : 3312, ♂, 30.0mm CW, 内妻川, 2005年8月20日 ; 3313, ♂, 22.0mm CW, ♀, 15.0mm CW, 内妻川, 2005年8月20日 ; 3306, ♂, 28.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考 : 両産地の山側の斜面に多数の個体が生息していた。

本種は徳島県の準絶滅危惧種で、吉野川、海部町小島および県南の海岸に生息するとされている (徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会, 2001)。

Helice sp.

アシハラガニ属の一種

(Fig. 7)



Fig. 7. *Helice* sp., SINH-CR 3297, from Nasa Inlet, 20 Aug. 2005.

調査標本 (1個体) : 3297, ♀, 16.0mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日。

記載 : 甲は四角形で、不定形の斑紋があり、光沢を有する。額の前縁は下垂し、中央のくぼみで左右に丸みのあるふくらみを形成する。前側縁に眼後歯を含め3歯がある。甲腹面の眼窩下縁に19個の顆粒が1列をなし、両端部で密に並ぶ。鉗脚の掌節上面は平滑。歩脚の指節・前節・腕節の前縁に

短毛が密生する。腹節に毛がある。

備考：本標本は、ハクセンシオマネキが生息している砂泥干潟に接する山側の礫の下で採集された。

本種の甲の背面の色彩と斑紋は三宅(1983, 1998)が示したタイワンアシハラガニ*Helice formosensis* Rathbun, 1931に酷似する。しかしながら、三宅(1983, 1998)によれば、石垣島産の雌のタイワンアシハラガニでは眼窩下縁の顆粒が21であり、本標本と異なる。また、タイワンアシハラガニでは、歩脚第1脚に限って腕節の末端部と前節の腹面の全体に短毛が密布する(三宅, 1983, 1998)。本標本では、歩脚第1脚いこのような短毛は認められない。したがって、本報告ではアシハラガニ属の一種とする。

Helice tridens (de Haan, 1835)

アシハラガニ

調査標本 (1個体)：3287, ♀, 32.5mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日。

備考：本標本は那佐湾最奥部の北端の調整池で採集された。ここには多数の個体が生息している。徳島県では、吉野川(山西・和田, 1996; 澤田, 2004)ならびに勝浦川と那賀川(山西・和田, 1996)でも記録がある。

Nanosesarma gordonii (Shen, 1935)

ヒメベンケイガニ

調査標本 (3個体)：3306, ♂, 6.8mm CW, 伊勢田川, 2005年8月20日；3522, ♂, 5.1mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日；3523, 4.5mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考：本種の生息環境は、ツノダシヤワラガニ、オキナワヤワラガニおよびマキトラノオガニと同様であった。

三宅(1998)およびDavie *et al.* (2004)による本種の国内の分布では、四国と明記された記録はない。本種は高知県の情報不足種とされていた(高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会, 2002)。しかしながら、本種は高知県中央部から西部の内湾では普通種である(山本ほか, 2006b)。

Parasesarma acis Davie, 1993

ユビアカベンケイガニ

調査標本 (1個体)：3512, ♀, 16.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考：本標本は那佐湾最奥部の北岸から南岸にいたる草地で得られた。ここには、多数の個体が生息している。

本種は徳島県の絶滅危惧Ⅱ類で、吉野川に生息し(徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会, 2001), 1983年, 1997年, 1999年および2004年に記録されている(澤田, 2004)。また、山西・和田(1996)は那賀川で本種を報告しているが、那佐湾での生息の記録はない。

Parasesarma pictum (de Haan, 1835)

カクベンケイガニ

調査標本 (4個体)：3513, ♂, 23.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日；3514, 2♂, 15.0-16.0mm CW, ♀, 16.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考：那佐湾最奥部の南岸の山際で、多数の個体が確認された。

本種は、吉野川では1993年, 1997年, 1999年および2004年に確認されている(澤田, 2004)。

Perisesarma bidens (de Haan, 1835)

フタバカクガニ

調査標本 (4個体)：3289, ♀(抱卵), 13.4mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日；3298, ♀, 21.0mm CW, 那佐湾, 2005年8月20日；3299, ♀, 14.0mm CW, 海部川, 2005年8月20日；3515, ♀, 12.0mm CW, 那佐湾, 2005年10月1日。

備考：本標本は那佐湾最奥部の南岸で採集された。南岸および北端の調整池には多数の個体が生息している。

本種は吉野川でも頻繁に記録されている(澤田, 2004)。また、勝浦川と那賀川にも生息している(山西・和田, 1996)。

Sesarmops intermedius (de Haan, 1835)

ベンケイガニ

調査標本：3311 (1個体), ♂, 30.0mm CW, 内

妻川, 2005年8月20日.

備考: 本標本は内妻川の河口域左岸の山の斜面で採集された. ここには多数の個体が生息している.

本種は徳島県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されており, 吉野川と那佐湾北岸の先端の東方に位置する小島が生息地とされている(徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会, 2001).

謝 辞

本報告は, 著者の一人, 山本が受領した公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金による成果の一部である.

引用文献

- Davie, P. J. F., D. Guinot and M. Turkyay (Sakai, K., ed.). 2004. Crabs of Japan. Version 1.0. Biodiversity Center of ETI, World Biodiversity Database CD-ROM Series. UNESCO-Publishing, Paris.
- 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会(編). 2002. 高知県レッドデータブック〔動物編〕. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470pp.
- 町田吉彦・細木光夫・厚井 亨. 2004. 高知県浦戸湾と須崎湾の潮間帯で記録されたカニ類の絶滅危惧種と希少種(十脚目: 短尾下目)(予報). 四国自然史科学研究, (1): 1-7.
- 三宅貞祥. 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅱ). 初版, 保育社, 大阪, vii+277pp.
- 三宅貞祥. 1998. 原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅱ). 3刷, 保育社, 大阪, vii+277pp.
- 佐藤友康・山本藍子・町田吉彦. 2006. 高知県におけるアリアケモドキ属2種の分布. 四国自然史科学研究, (3): 9-14.
- 澤田卓哉. 2004. 吉野川河口域の蟹類. 四国大学紀要自然科学編, (21): 25-36.
- 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会(編). 2001. 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物. 徳島県生活環境部環境政策課, 徳島, 438pp.
- 和田恵次. 1995. 短尾下目. (西村三郎, 編著: 原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕) pp. 379-418. 保育社, 大阪.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏. 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan サイエンスレポート, 3: 1-181.
- 山本藍子・町田吉彦・佐藤友康. 2005. 土佐湾流入河川ならびに内湾の汽水域に生息する8種のカニ類の分布. 四国自然史科学研究, (2): 1-19.
- 山本藍子・町田吉彦・佐藤友康. 2006a. 高知県の干潟環境におけるタイワンヒライソモドキとヒメヒライソモドキの分布. 四国自然史科学研究, (3): 1-8.
- 山本藍子・町田吉彦・佐藤友康. 2006b. 高知県におけるヒメベンケイガニの分布. 四国自然史科学研究, (3): 23-28.
- 山西良平・和田恵次. 1996. 干潟をもつ各地域の現状(徳島県). (和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏, 編著: 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状) pp. 105-106. WWF Japan サイエンスレポート, 3.

(原稿受理 2006年3月31日)